

第1回 第6次豊橋市総合計画策定市民会議
議事要旨

日時 令和元年12月10日(火) 13:00~14:45
場所 豊橋市役所 災害対策本部室

■10年後の豊橋はどんなまちになって欲しいか

日常生活や所属団体の活動を踏まえ、10年後の豊橋がどんなまちになって欲しいか、ご意見を
お願いしたい。

○ 委員

- ・ 人口減少は由々しき問題と考えている。豊橋市だけで考えるのは狭いと感じるので、豊橋市を核とした広域連合で対策を進めるべきと考える。
- ・ ほの国百貨店が閉店するのは、地域にとって重大な問題であり、高崎市などはまちなかのデパートが閉店したことで、衰退している。豊橋駅前の活性化が必要であり、若者を引き寄せる仕組みづくりが重要となる。
- ・ 自動車産業は電動化が進むなど、100年に一度ともいわれるスピードで変化している。豊橋市にはトヨタ自動車の下請企業が立地しているため、産業の変化に対応するよう、IT化を進めるべき。農業においてもデータ活用が重要となる。

○ 委員

- ・ 外国人支援について、充実しすぎるとそれが当たり前となってしまう恐れがある。外国人が自ら努力し、それをやり過ぎないように支援していくことが求められる。
- ・ 外国人も市民の一人として認められ、社会に溶け込んで欲しいと思う。

○ 委員

- ・ 人口減少はわが国にとって初めての経験であり、この先、何がおきるか、予見することが難しい状況にある。人口が減少し、様々な面で衰退がはじまると、従来の縦割りから横のつながりを強化していかなければ、解決できない問題が多くなると考えている。
- ・ 行政運営においては、人口が減り、税収が減っていく中では、公助共助自助を見直していくことが必要で、自分で出来ることは自分でやることが重要となる。また、デジタル技術の革新など新たな英知を活用していくことも重要になると考える。
- ・ 豊橋で不足しているのが情報産業である。情報系の企業が少なく、今後、情報産業が成長していくと、地域外へお金が出ていってしまうので、これから必要とされる産業、成長が期待される産業への注力が必要だと考える。

○ 委員

- ・ 人口減少の中で問題となっているのが労働力不足である。採用しても直ぐに辞めてしまうなど、解決に至らない状況であり、人口が減少することで、問題が加速していく恐れがあるので、対策を考えていく必要がある。
- ・ 豊橋は住みやすいまちだなということが住んでみてわかったなので、その点をアピールできると良いと思う。

○ 委員

- ・ 近年は国の方針もあり、在宅医療の必要性が叫ばれている。当初は家族で見守るという論点であったが、現在は独居の方がどのように最期を迎えるかという論点になっている。そうになると、地域との関わりが重要となり、まちづくり団体などと協力しながら対応していくことが必要と考える。

○ 委員

- ・ ここ数年、働く母親が増えているため、0歳児から2歳児までの乳幼児保育のニーズが高まっている一方、保育士不足が深刻化し、保育の受入が厳しい状況になっている。活気ある豊橋になるためには、子どもが子どもらしく元気であり、保護者が心身ともに健康であることが重要であると考えます。
- ・ 子育てに関して、妊娠期から様々な支援が行われているが、身近な例をみていると、産後の段階での支援を充実させていくことが必要と考える。
- ・ 豊橋駅周辺やまちなかは人通りが少なく、活気がないように感じる。魅力的な店が少ないため、名古屋や浜松などへ出かけてしまうのではないかと。まちなかに、「ここに行けば欲しいものが手に入る」というお店が増えると活気が戻ってくると思う。
- ・ 子どもからお年寄りまで三世代が共通して楽しめることは食べることだと思う。おいしいものを一緒に食べることができる場があると三世代が一緒に出かける機会になる。
- ・ 少子化を考えた時に、出会いの場がないと良く言われるので、婚活イベントなど気軽に参加出来る機会があれば、少子化解決の糸口になるのではないかと考える。

○ 委員

- ・ 人口減少や少子高齢化対策のキーになるのは、20代女性の流出の抑制だと考えている。女性が流出してしまうと、出生率が高くても少子化対策が空振りに終わってしまう。女性が流出する要因として、情報産業など第三次産業が弱いことが挙げられ、農業、工業では女性の雇用が難しいといえる。今後10年間を見据えると、女性が就業しやすい職種を育成することで流出を抑制し、男女のバランスを確保していくことが重要だと考える。

○ 委員

- ・ 昨年、豊橋市障害者のコミュニケーション手段利用促進に関する条例が制定された。コミュニケーションは言葉だけでなく、ボディアクションでやりとりができるということを学べると良いと考えている。コミュニケーションが上手でない人たちをサポートする環境をまち全体で作っていくことが大切だと考える。
- ・ 豊橋は良いところだが、PRが下手だと思う。豊橋は山も海もあり田舎も都会もある、小さな日本ともいえるので、住みやすいまちとしてPRし、人を呼び込んでいくべきだと考える。
- ・ 大学進学率が高く、東京に進学して戻ってこない同世代が多い一方、早期退職でUターンする人が増えている。現役で活躍する年代に豊橋にいてもらうため、もっと若い時にUターンしたり、自分の子どもを先に豊橋で住まわせたいと思ってもらえるような取り組みなどが必要だと考える。

○ 委員

- ・ 豊橋をはじめ、この地域は日本のトップを走る農業地域となっているが、一方で農業従事者の高齢化が進み、後継者もなく、これから耕作放棄地が増えてくる危惧がある。市民の皆さまにも農業の素晴らしさを是非知ってもらいたいと思っている。

○ 委員

- ・ 介護費用の負担が大きくなっている中、公費でしっかり取り組むとともに、市民も取り組むことが大切であり、そのための居場所づくりを進める必要があると考える。高齢者が自動車を運転できなくても外出に支障がない豊橋に変わっていくと良いと思う。買い物支援、食事支援など手厚くし、それを社会資源として作り出せたら良いと考える。

○ 委員

- ・ すべての子どもが、安心して自信をもって自分の力で選択できる世の中になってほしいと考えている。子ども達から話を聞くと、学校生活の同調圧力の中で、息苦しさを感じており、豊橋市は不登校の数が多い状況にある。10年後の暮らしを考えると、子どもたちが生き生きしている豊橋にしたいと思う。幸せな子ども時代を過ごせば、その後の人生も幸せになると考える。10年後といわず、20年後、30年後に親になった子ども達が「豊橋はいいよね」と思えるようなまちにしたい。

○ 委員

- ・ 小学校の部活動が順次廃止され、部活動がなくなった場合の子どもの受け皿となる学童保育の問題が解決されていない中、あふれた子ども達をどうするかが課題だと考える。
- ・ 地域の活動に外国人の保護者が参加できるよう、漢字がわからなければひらがなで連絡するなど、少しのことでよいので工夫をするとよいと思う。

- ・ 豊橋は車社会で、車がないと生活できない環境だと感じる。車に頼らなくても生活しやすい環境を整える必要があると考える。
- 委員
- ・ 地域を変えるのは、よそ者、若者、馬鹿者と言われている。よそ者について、豊橋は他の地域に比べて恵まれていると言われた。当たり前になってしまっていることが特別なことであるということで見直すと、まちづくりでも新たな展開ができるのではないかと考える。若者について、東京や名古屋など地域外に流出しているの、今後 10 年で若者にとって魅力あるまちを作っていくことが我々の責任であると感じている。馬鹿者に関して、後輩から、クラウドファンディングで資金を調達し、出雲大社の分社を老津神社に設置し、沿道をマルシェにしたいと相談を受けたことがある。このような、よそ者、若者、馬鹿者を受け入れていく土壌を形成していく必要があると考える。
- 委員
- ・ 総合計画では災害に強い豊橋市を考えて行く必要があると思う。災害が発生した場合、一番困るのはトイレである。各校区に排泄物をマンホールに流せるような施設を整備する必要があると考える。先手を打って対応していくため、総合計画にしっかりと位置づけていく必要があると考える。
- 委員
- ・ 社会全体を見ると、男女の雇用や高齢化、障害者、外国人など様々な課題があるが、互いに得意分野を補い合い、豊橋全体で、ラグビーのようにワンチームで頑張れると良いと思う。10 年後の豊橋について、豊橋へ行けばワクワクする、あこがれのまちになり、そこから発展して、住んでみたいまちになると良いと思う。
- 委員
- ・ 豊橋には地元の小中学校の体育館の他、10 箇所の地区体育館があり、大変恵まれた環境にあるが、地区体育館は老朽化が進み、10 年後を考えると、更新や改築が必要だと考える。現在の施設はいずれもスロープなどバリアフリーに未対応で、今後、障害者のスポーツなどをどのように振興していくかが課題だと考えている。
 - ・ また、新アリーナについて、全国と比較すると、交通アクセス、駐車場など、豊橋市が計画しているアリーナは立地条件が良いとはいえないと考える。
 - ・ 10 年後の豊橋について、生涯スポーツを通じて、健康で活力あふれた環境を実現したいと考えている。

<欠席委員意見>

- ・喫煙について、全国的に禁煙の流れになっており、豊橋市もその流れに乗って禁煙箇所が多くなっているが、吸う人、吸わない人が共存できる街になっていると良い。
- ・23号バイパスが豊橋市の全区間2車線になっていると良いと考える。
- ・自営業の消防団員が減り、サラリーマンの団員が増えており、災害時の活動の人員確保が難しくなっている。誰でも活動できる消防団の在り方を考えてかなければならない。
- ・豊橋は大きな失敗はしていないが、新しい方針を出していないように感じる。新しいことに挑戦していくべきと考える。
- ・岡崎などでは歴史まちづくり法に従い、地域の歴史を踏まえたまちづくりを行っている。豊橋も遺跡などの歴史遺産をうまくつなげ、売り出していくべきと考える。
- ・豊橋にも芸術に取り組んでいる人がいるが、発表会などに多大な労力とお金がかかり、活動をやめてしまう人も多い。誰もが文化・芸術活動楽しみ、気軽に発表できる環境が整うとよいと考える。
- ・街中と田舎の温度差ないまちになってほしい。バスなどの公共交通も田舎には空白地帯がある。市の境界にとらわれず田舎と近い市街地がつながるような仕組みを考えたらどうか。
- ・豊橋駅はたくさんの人に利用されているが、駅の利用者を駅の外に誘導するような仕組みや、駅を出て少し歩いたところにまちの象徴となるようなものがあるとよいと思う。